

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-326872

(43) 公開日 平成7年(1995)12月12日

(51) Int.Cl.⁶

H 0 5 K 7/00

識別記号

庁内整理番号

A 9266-4E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平6-141135

(22) 出願日 平成6年(1994)5月31日

(71) 出願人 000000491

アイワ株式会社

東京都台東区池之端1丁目2番11号

(72) 発明者 岡 英明

東京都台東区池之端1丁目2番11号 アイ
ワ株式会社内

(72) 発明者 山口 文子

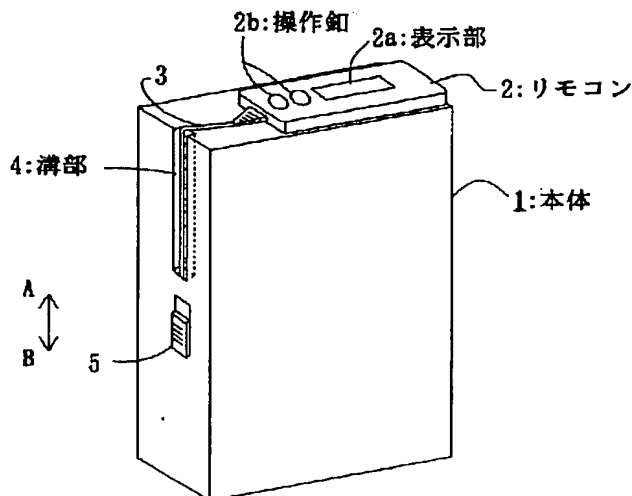
東京都台東区池之端1丁目2番11号 アイ
ワ株式会社内

(54) 【発明の名称】 コード収納装置

(57) 【要約】

【目的】 リモコン付きの機器のコード収納装置を提供する。

【構成】 本体を使用しないときには、リモコンのコードを巻き取るようにし、イヤホンをリモコンから取り外し自在にしているので、携帯性がよく、イヤホンのような消耗品は、汚れたりしたときには他のものと取り替えることが容易にできる。また非使用時にリモコンを本体に装着した際にホールドスイッチがオンになるようにすれば誤って操作釦が押されて機器が動作し、電池を無駄にするようなことを収納動作に伴って簡単にできるので、ホールドスイッチの操作を忘れなくなり、携帯性がさらによくなる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 コードで本体と接続されたりリモートコントロール装置を備え、前記コードが前記本体内部に収納可能になされたりリモートコントロール可能な携帯用機器等のコード収納装置であって、前記リモートコントロール装置には他の接続コードが接続可能になされ、前記本体と前記リモートコントロール装置とを接続するコードのみを前記本体内部に収納するようにし、上記本体と上記リモートコントロール装置とを係止する一対の係止部を前記本体と前記リモートコントロール装置に設けたコード収納装置において、前記リモートコントロール装置を前記本体に係止している間は前記本体の操作を無効にすることを特徴とするコード収納装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、リモートコントロール可能なラジオやヘッドホンステレオ等の携帯用機器に用いられるコード収納装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 イヤホンやヘッドホン等をコードを介して本体に接続して使用するラジオ等の携帯用機器においては、機器の非使用時にコードが絡まるなどして邪魔になることがある。そこで、非使用時にコードを本体に巻き付けたり、コードを結んだりして使用されることがある。

【0003】 しかし、上述のようにコードを巻き付けたり結んだりを繰り返すと、コードが断線するなどして、使用不可能になることがある。

【0004】 このような欠点を解決するために、例えば実公平 5-34840 号公報などに示されているように、コードを機器本体内に巻き取り収納することが提案されている。

【0005】 以下図 4 を用いてこれを説明する。

【0006】 同図において、ラジオ 20 内部には巻き取り部 21 が設けられている。巻き取り部 21 は軸 22 を中心に回転自在に取り付けられ、その周辺には係止部 23 が 2 カ所に凸設されており、常には図示しないゼンマイバネによって矢印 C 方向に後述するコードを巻き取るように付勢されている。

【0007】 ラジオ 20 には巻き取り鉤 24 がラジオ 20 のキャビネットに矢印 A、B 方向に擦動可能に取り付けられており、この巻き取り鉤 24 は常には矢印 B 方向に付勢されている。巻き取り鉤 24 の巻き取り部 21 と対抗する側には、ロック部 25 が設けられ、このロック部 25 は巻き取り部 21 の係止部 23 を係止し、巻き取り部 21 が矢印 C 方向に回転するのを阻止するようになっている。

【0008】 イヤホン 26 のコード 27 の一端は巻き取り部 21 に固定されており、他端はラジオ 20 のキャビネットに設けられた穴から外側に引き出され、イヤホン

26 本体に接続されている。

【0009】 イヤホン 26 のコード 27 を引き出すときには、コード 27 を手で引っ張ると巻き取り部 21 が矢印 D 方向に回転し、コード 27 が引き出される。所望の長さまでコード 27 を引き出した後手を離すと、ロック部 25 と係止部 23 とが当接するまで巻き取り部 21 が矢印 C 方向に回転し、これらが当接するとその位置で巻き取り部 21 の回転がロックされてコード 27 の長さが保持される。

【0010】 コード 27 を巻き取るときには、巻き取り鉤 24 を矢印 A 方向に操作すると、ロック部 25 と係止部 23 とのロックが解除される。すると巻き取り部 21 は、ゼンマイバネの付勢力により矢印 C 方向に回転してコード 27 が巻き取り部 21 に巻き取られる。所望の長さまでコード 27 を巻き取り、巻き取り鉤 24 の操作を解除すると、付勢力により巻き取り鉤 24 は矢印 B 方向に復帰し、再びロック部 25 と係止部 23 とがロックされ、コード 27 が巻き取り収納される。

【0011】

【発明が解決しようとしている課題】 現在、リモートコントロール（以下リモコン）が付属している機器が多数存在しているが、上述のような収納装置ではこのリモコンが邪魔になって、うまくコードの収納ができなかった。

【0012】 そのため、リモコンと本体とをつなぐコード部分のみを巻き取り可能にし、その際リモコンを本体に装着できるようにして、携帯性をよくするようなコード収納装置が考えられる。

【0013】 ところで、最近の携帯用機器の多くには、非使用時に操作を受け付けなくにする、いわゆるホールドスイッチが設けられているが、使用者がわざわざこのホールドスイッチを操作しなければならず、コードの収納やリモコンの巻き取り動作のような携帯するための動作に関連してホールド操作がなされるような技術はなく面倒であった。

【0014】 そこでこの発明は、上述の課題を解決したものであり、リモコン付きの携帯用機器等のコード収納装置を提案するものである。

【0015】

【課題を解決するための手段】 上述の課題を解決するために、コードで本体と接続されたりリモートコントロール装置を備え、前記コードが前記本体内部に収納可能になされたりリモートコントロール可能な携帯用機器等のコード収納装置であって、前記リモートコントロール装置には他の接続コードが接続可能になされ、前記本体と前記リモートコントロール装置とを接続するコードのみを前記本体内部に収納するようにし、上記本体と上記リモートコントロール装置とを係止する一対の係止部を前記本体と前記リモートコントロール装置に設けたコード収納装置において、前記リモートコントロール装置を前記本



体に係止している間は前記本体の操作を無効にすることを特徴とするものである。

【0016】

【作用】本発明によれば、リモコンと本体とを接続しているコードのみを収納し、他の接続コードとして例えばイヤホンのリモコンに対して取り外し可能にしているので、非使用時にはリモコンのコードを巻き取り収納できるのでコードが邪魔にならず、さらにイヤホンが故障したりしたときには、イヤホンのみを交換することもでき、リモコンのコードを収納し、リモコンを本体に係止することができるため、非使用時にコードもリモコンも邪魔にならずに携帯することができる。さらに上述のように非使用時にリモコンを本体に係止すると、自動的に本体及びリモコンからの操作が無効になるので、非使用時に誤って機器を動作させてしまうようなことがなく携帯性が非常によいものである。

【0017】

【実施例】以下、図を用いて本発明によるコード収納装置をラジオに適用した場合の一実施例について説明する。

【0018】図1はラジオの本体1の内部にリモコン2のコード2Cを収納し、後述するようにリモコン2を本体1に装着した状態（非使用状態）を示す斜視図である。

【0019】本体1は図示しないが、従来と同様な巻き取り部を有し、巻き取り釘5によってコード3が巻き取り可能になされている。また本体1には溝部4が形成され、コード3を巻き取ったときにこのコード3が溝部4に入り込み、コード3が本体からはみ出したりはずれたりしないようになされており、これにより携帯時にコード3がものに当たって切れたりすることを防いでいる。

【0020】コード3の本体に取り付けられていない側の端部には、リモコン2が取り付けられている。またリモコン2のコード3とは逆側には、イヤホン8のプラグ9が取り外し自在に取り付けられるようになされている。このイヤホン8とプラグ9とはコード10によって結合されている。

【0021】リモコン2の一の面には、動作モード等を表示するための表示部2aや周波数等を切り換えるための操作釘2bなどが設けられている。また、リモコン2の他の面には凸部6が本例では2つ形成され、本体1に設けられた穴部7に係合可能になされている。この凸部6の先端は、径が若干大きな略球状とされ、穴部7に係合した際に抜け止めの役目をなしている。

【0022】このような構成において、ラジオ本体1を使用するときには、リモコン2を凸部6による抜け止めの力に抗して引っ張って本体1から取り外し、イヤホン8のプラグ9をリモコン2に差し込み、所望の長さだけコード3を引っ張り出して使用する。

【0023】非使用時には、巻き取り釘5を矢印A方向

に操作して、コード3が溝部4に入り込むようにしてコード3を巻き取り収納し、リモコン2の凸部6を本体1の穴部7に係合させる。このときイヤホン8はリモコン2に取り付けたままでも、外してもよいが、イヤホン8のコード10を短めに設定しておけば、このイヤホンはそれほど邪魔になることはない。

【0024】尚、上述の実施例においてはリモコン2の凸部6と本体1の穴部7とが単に係合するだけである例を示したが、図3、図4のようにリモコンを本体に装着したときには、本体及びリモコンからの操作を受け付けずに無効にするようないわゆるホールドスイッチがオンになるようにしてもよい。

【0025】すなわち図3において、本体1の穴部7の近傍に配された基板11上の穴部7に対応する位置にはホールドスイッチ12が配されている。そして図3

(a)の状態から図3(b)のようにリモコン2を本体1に装着したときには、凸部6によってこのホールドスイッチ12がオンになるようになっている。

【0026】また図4に示すように、本体13のリモコン2が装着される側に凸部13を設け、装着時にリモコン2に設けられた穴14にこの凸部13が入り込み、この時にリモコン2に配されたホールドスイッチ12がオンになるようにしてもよい。

【0027】上述の実施例においては、ラジオを本発明に適用した例を示したが、本発明はヘッド本ステレオ等のリモコンを有する機器に適用することができる。またリモコンに取り外し自在なものとしてイヤホンを示したが、ヘッドホン等を取り付けるようにしてもよく、本実施例に限定されない。

【0028】またリモコン2を本体1に装着したときにホールドスイッチ12がオンになる例を示したが、これ以外にも例えば電源がオフになり、取り外せば電源が入るようなスイッチをかわりに設けてもよく、これらの両方を備えるようにしてもよい。

【0029】

【発明の効果】本発明によれば、本体を使用しないときには、リモコンのコードを巻き取るようにし、イヤホンをリモコンから取り外し自在にしているので、携帯性がよく、イヤホンのような消耗品は、汚れたりしたときには他のものと取り替えることが容易にできる。また非使用時にリモコンを本体に装着した際にホールドスイッチがオンになるようにすれば誤って操作釘が押されて機器が動作し、電池を無駄にするようなことを収納動作に伴って簡単にできるので、ホールドスイッチの操作を忘れなくなり、携帯性がさらによくなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す斜視図である。

【図2】本発明の一実施例を示す斜視図である。

【図3】本発明のリモコン装着状態の一実施例を示す部分拡大図である。



【図4】 本発明のリモコン装着状態の一実施例を示す部分拡大図である。

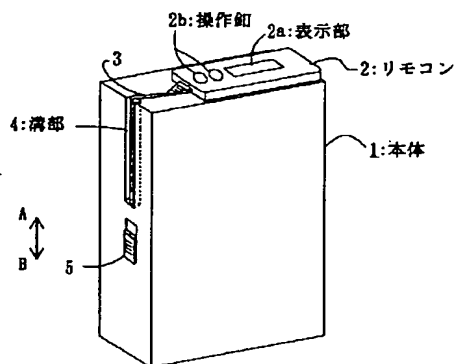
【図5】 従来のコード収納装置の一例を示す断面図である。

【符号の説明】

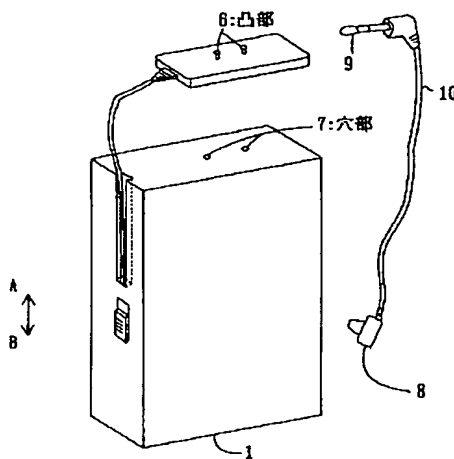
1 本体
2 リモコン

3 コード
4 溝部
6 凸部
7 穴部
8 イヤホン
12 ホールドスイッチ

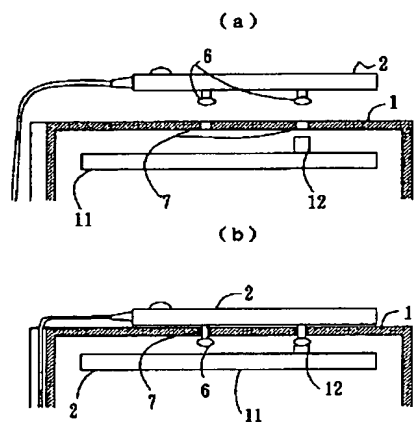
【図1】



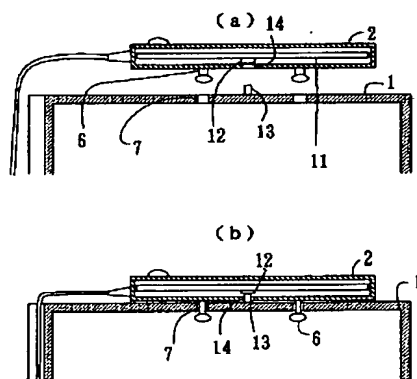
【図2】



【図3】



【図4】



【図 5】

